

# 環境活動レポート



作成：平成19年1月24日

改訂：平成24年6月28日

株式会社 東海鋳造所

## 1. 組織の概要（事業所名、所在地、事業概要、事業規模等）

1. 事業者名及び代表者名 株式会社 東海鋳造所  
取締役社長 石黒 一彦
2. 所在地 愛知県丹羽郡大口町大屋敷三丁目148番地
3. 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先  
責任者 製造部 次長 野村 忠志  
担当者 製造部 製造技術課 サブリーダー 大脇 秀規  
  
連絡先 電話番号 (0587) 95-2186 (代表)  
FAX番号 (0587) 95-5959
4. 事業概要 銑鉄鋳物の製造
5. 事業規模 2011年度 生産量（最終合格量）10,608t 売上高3,497百万円
6. 土地 敷地 24,260㎡  
建築面積 12,400㎡
7. 従業員 役員 3人  
従業員 130人（2012年3月21日現在）

## 2. 対象範囲（認証・登録範囲）、レポートの対象期間及び発行日

1. 対象範囲（認証・登録範囲） 銑鉄鋳物の製造
2. レポートの対象期間及び発行日 対象期間:平成23年3月21日～平成24年3月20日  
作成日:平成19年1月24日  
改訂日:平成24年6月28日

# 環 境 方 針

株式会社東海鑄造所は、自社事業活動において生産性を向上（合格率UP、稼働率UP）することにより、省資源・省エネルギー・廃棄物削減に直結する生産活動をめざす環境経営に取り組めます。

環境経営の取り組みを重点課題として、以下の方針を定めます。

1. 環境関連の法令及びその他同意した要求事項を遵守する。
2. 事業活動において環境負荷を生産性（合格率、稼働率）に直結させ、生産性を向上させることにより環境負荷低減を図る。
3. 環境目標達成、即ち生産性目標達成の為に各部門の改善実施計画策定し、継続的な改善に取り組む。
4. グリーン購入法に基づき、グリーン製品の購入に努める。
5. 尚、この方針は全従業員に周知徹底する。

制定日： 2006年 9月 6日

改訂日： 2012年 3月21日

株式会社 東海鑄造所

取締役社長 石 黒、 一 彦

### 3. 環境管理組織機能図

改定日	作成	承認	内容
'09年12月21日	大脇	野村	環境管理委員の変更
'10年12月21日	大脇	野村	見直し
'11年12月21日	大脇	野村	見直し
'12年3月21日	大脇	野村	環境管理委員の変更

承認	作成
'12年3月22日	'12年3月21日

環境マネジメントシステムを効果的に実施するために、環境管理組織・役割・責任・権限を定める。

<b>最高経営者</b> 社長 石黒 一彦
環境マネジメントシステムの構築・運用・維持を統括し、環境パフォーマンスに対する判断と処置、内部監査の結果に対する判断と処置、並びに環境方針と一貫した継続的改善に対し責任を有し、下記事項を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境方針の決定</li> <li>・環境マネジメントシステムの見直し</li> <li>・環境管理責任者の指名</li> <li>・経営資源（人・もの・金）の準備</li> </ul>

<b>環境管理責任者</b> 製造部次長 野村 忠志
環境マネジメントシステムが構築され、実施され、かつ維持されていることを確実にするため、下記事項を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境目的・目標・実施計画（案）の作成</li> <li>・各部署の環境目的・目標・実施計画の承認</li> <li>・著しい環境側面の承認</li> <li>・環境目的・目標・実施計画の進捗状況の把握並びに指示</li> <li>・不適合に対する是正・予防処置の承認</li> <li>・法遵守の評価結果に対する承認</li> <li>・最高経営者に環境マネジメントシステムの実績報告</li> </ul>

内部監査員 野村 忠志 大脇 秀規
内部監査の実施と報告 (年1回 1月)

事務局 野村 忠志 大脇 秀規
・各部門データの まとめ

環境管理委員								
●	●	●	●	●	●	●	●	●
治 金 課	鑄 造 課	工 作 課	製 造 技 術 課	設 計 課	品 質 管 理 課	管 理 課	営 業 課	総 務 課
田 中	牧 野	藤 村	伊 原	岩 元	濱 松	松 田	鈴 木	小 林
成 浩	盛 幸	直 希	宏 幸	広 喜	孔 之	幸 治	正 志	光 一
委員は各部署の代表によって構成し、役割・責任・権限は下記とする。なお、委員会は定期的(1回/月)に開催し(業務報告会にて)、実績・結果の評価検証を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境側面の調査・抽出</li> <li>・環境目的・目標及び実施計画の策定及び実施</li> <li>・各部署の業務に関わる環境側面の管理</li> <li>・不適合に対する是正・予防処置の実施</li> <li>・教育訓練の実施</li> </ul>								

## 4. 環境目標

2011年度～2013年度までの環境負荷低減目標は(絶対量・原単位・低減量・低減率)2010年度実績基準にして表1に示す。合格率及び稼働率の目標値を表2に示す。

表1. 環境負荷低減目標値

	量単位	2010年度実績	2011年度目標			2012年度目標		2013年度目標	
		絶対量	絶対量	低減量	絶対量	低減量	絶対量	低減量	
		原単位	原単位	低減率%	原単位	低減率%	原単位	低減率%	
1. 温室効果ガス 排出量(※1)	kg-CO <sub>2</sub>	15,907,455	15,671,669	235,786	15,404,558	502,897	15,137,448	770,007	
	(○/t)	1,414	1,393	1.5	1,370	3.2	1,346	4.9	
2. 廃棄物総排出 量(上段)及び廃 棄物最終処分量 (下段)	t	3,346	3,337	9.8	3,323	22.9	3,310	36.0	
	(○/t)	0.298	0.297	0.3	0.295	0.7	0.294	1.1	
	t	0	0	0	0	0	0	0	
	(○/t)	0	0	0	0	0	0	0	
3-1. 総排水量	t	46,106	45,423	683	44,649	1,458	43,875	2,232	
	(○/t)	4.10	4.04	1.5	3.97	3.2	3.90	4.9	
3-2. 水使用量	m <sup>3</sup>	63,730	62,785	945	61,715	2,015	60,645	3,085	
	(○/t)	5.67	5.58	1.5	5.49	3.2	5.39	4.9	
4. 化学物質使用 量	t	0	0	0	0	0	0	0	
	(○/t)	0.00	0.00	0	0.00	0	0.00	0	
5. エネルギー使 用量	MJ	212,017,956	209,934,605	2,083,351	207,643,779	4,374,176	205,352,954	6,665,002	
	(○/t)	18,851	18,666	1.00	18,462	2.10	18,259	3.20	
6. 物質使用量 (リターンスク ラップ含む)	t	31,523	31,430	93	31,307	216	31,183	339	
	(○/t)	2.80	2.79	0.3	2.78	0.7	2.77	1.1	
7. サイト内で循 環的利用を行っ ている物質等 上段：リターン スクラップ 下段：循環水	t	14,823	14,779	44	14,721	102	14,663	160	
	(○/t)	1.32	1.31	0.3	1.31	0.7	1.30	1.1	
	m <sup>3</sup>	-	-	-	-	-	-	-	
	(○/t)	-	-	-	-	-	-	-	
8. 総製品生産量また は総商品販売量(最終 合格量)	t	11,247	11247	-	11247	-	11247	-	
	-	1	1	-	1	-	1	-	
・グリーン購入	-								
	%	10%		36% (※2)		40% (※2)		50% (※2)	
・自らが生産・販売・ 提供する製品及び サービスに関する項 目	-	-	-	-	-	-	-	-	
	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1. 排出係数は、0.455 を使用(中部電力発表値)

※2. サイト内で循環的利用を行っている物質等々の循環水については計測不可。

※3. グリーン購入の数値目標は、文具類購入品の全体に対しての目標値。グリーン購入品点の集計はしているが、グリーン購入品でない文具類購入品の集計まではできておらず、表記は凡その値。

表2. 環境活動の目標値

		2010年度実績	2011年度目標	2012年度目標	2013年度目標
合格率	(%)	91.9	92.2	92.5	92.9
稼働率	(%)	76.7	77.7	78.7	79.7

※2011～2013年度目標は2010年度を基準にしている。

※大物ラインにて、2012年4月まで打痕傷が6～7%発生していた為、装置の改良を2012年度予定していたが、設備補修によって2012年5月以降打痕傷が減少した為、2014年度に先延ばしした。

## 5. 環境活動計画

当社では環境負荷低減活動を以下の2つの取組にて推進してきた。

### 1) 各課別による目標達成活動

各課において、それぞれ半期毎の活動計画を立て、継続して合格率・稼働率の目標達成に取り組んだ。以下に活動事例を示す。

- 合格率向上)
- ・溶湯に起因する品質異常の撲滅 (冶金課)
  - ・安定した品質を維持する (鑄造課) 「Aライン」…砂投入初期充填向上、入れ干し対策、砂性調査型の確立、回収砂水分管理
  - 「Fライン」…砂飛び込み対策、ジャケット清掃装置の考案・設置、Hドラム後の水分管理
  - ・各工程別客先クレームの低減 (工作課)
  - ・最終合格率の向上 (社内不良及び、客先返品不良対策) (設計課)
  - ・クレーム件数削減、合格率の向上95%以上、客先返品率の低減 (品質管理課)
- 稼働率向上)
- ・湯待ちロス (設備トラブルや成分調整ミス等による) の削減 (冶金課)
  - ・安定した稼働を維持する (各ライン設備管理、保全ラインミーティングの実施) (鑄造課)
  - ・加工機の効率向上 (鑄仕上の機械化推進、バリンダー工程の作業効率向上)
  - ・検査・修正工程の作業場改善による効率向上 (工作課)
  - ・劣化配線・電気部品の更新、不具合箇所の改善・省エネ (製造技術課)

### 2) 横断的組織 (合理化委員会) による目標達成活動

全社一丸の活動とする為に2008年度から、3M(ムリ、ムダ、ムラ)、3R(リサイクル、リデュース、リユース)の排除を推進するために、横断的組織による以下の4つのグループで活動を推進した。取組を以下に示す。

- インプット・エネルギーG)
- ・エア漏れの調査と修理 (1/M)
  - ・エネルギー全般、資材、消耗品の使用量低減
  - ・代替品の検討、新規発注先の開拓
  - ・MFCAの活用
- 品質G)
- ・客先監査指摘事項を基にした全社的改善活動の推進
- 製品コスト低減G)
- ・方案歩留向上
  - ・中子使用量の削減、中子取数の増加
  - ・出荷物流の効率化、新規運送業者の開拓
- 6SG)
- ・各課毎の活動管理 (1/M)
  - ・工場内不用品一斉撤去 (1/M)